

原発がこわい女たちの会  
http://blog.zaq.ne.jp/g-kowai-wakayama/

《 2013年08月 | トップ | 2013年10月 》

検索

2013年09月27日(金)

 検索

鈴木静枝さんからのおたより

アーカイブ

私たちの大先輩、鈴木静枝さんからおたよりをいただきました。個人宛の私信でしたが、ご本人のお許しを得てここにご紹介したいと思います。  
鈴木さんは、これまでブログ(2012・6・1等)にも書きましたが、日高町で長年和歌山の原発運動を担ってこられた方で、「女から女への遺言状」『原発を拒み続けた和歌山の記録』(寿郎社)にも登場されています。現在、町内のケアハウスでお暮しです。  
おたよりは、この夏、日高町波満の家さんでの浦磯合宿からの帰路にお訪ねし、後日、合宿のレポートをお送りしたことへの返信文です。鈴木さんのすごいなと思うところは、運動の功績もさりながら、95歳になられる今も、社会や自然に対して真っ当な関心を持ち続けられていることです。個室の机には新聞がひろげられ、絵筆が立てかけられています。訪ねた日も、「アメリカはシリアに爆弾を落とすのかい」と緊迫のシリア情勢を心配しておられました。明晰な思考と穏やかな話しぶり。こんな風に齢を重ねることはなかなかできるものではありません。(sora)

- 2016年11月(2)
- 2016年10月(1)
- 2016年09月(1)
- 2016年08月(2)
- 2016年07月(4)
- 2016年06月(2)
- 2016年05月(1)
- 2016年04月(3)
- 2016年03月(2)
- 2016年02月(3)
- 2016年01月(2)
- 2015年12月(4)
- 2015年11月(2)
- 2015年10月(1)
- 2015年09月(3)
- 2015年08月(3)
- 2015年07月(2)
- 2015年06月(2)
- 2015年05月(2)
- 2015年04月(2)
- 2015年03月(2)
- 2015年02月(2)
- 2015年01月(5)
- 2014年12月(3)
- 2014年11月(2)
- 2014年10月(2)
- 2014年09月(2)
- 2014年08月(1)
- 2014年07月(2)
- 2014年06月(1)
- 2014年05月(3)
- 2014年04月(4)
- 2014年03月(3)
- 2014年02月(1)
- 2014年01月(3)
- 2013年12月(4)
- 2013年11月(1)
- 2013年10月(3)
- 2013年09月(5)
- 2013年08月(1)
- 2013年07月(3)
- 2013年06月(5)
- 2013年05月(3)
- 2013年04月(2)
- 2013年03月(6)
- 2013年02月(2)
- 2013年01月(3)
- 2012年12月(2)
- 2012年11月(1)
- 2012年10月(2)

先日はわざわざお訪ね下さいまして、ありがとうございます。こんな所にいますと、お客様が何よりの楽しみです。写真いい思い出になります。

合宿でのコピー、ていねいに読ませて頂きました。  
はまのやで、いっしょに先生方のお話をうかがっているような気がしました。アベさんたら、事故はコントロールされているなんて世界の人々の前で公言して、あとで恥をかかなければいいのですが。

私の若い頃読んだ小松左京さんのSFを思い出しました。  
日本の活火山、休火山、いっせいに火を吹き、地震で島々が海の中へ沈んでいく、故郷を捨てて命からがら、知らぬ他国へのがれていく人々。  
原発も放射能も文中に出現しなかったような気がします。五十年前だから、ここまでひどいことになるとは、想像出来なかったのかも知れません。  
他国へのがれた人々は、こっそりと、心細く、小さくなって生きてゆかねばなりません。何だか五十年後の日本を暗示しているような気がします。  
オリンピックで浮かれているより、まず、汚染水のしまつですね。やはり声をあげてそれを言わなければ、ほんとうに意識から忘れ去られるかもしれません。

今日もきれいに晴れて、白い舟がいくつも見えます。  
一ヶ所に止まっているのは貝をとっているのか、海藻をきっているのか。台風18号が近づいているそうですが、まだそのけはいは見えません。  
ようやく秋のけはいが感じられて、やれやれです。  
ご活躍を期待しています。  
またこちらへいらしたら来てくださいね。  
ご健康をお祈りしています。

九月十三日 静枝

2013-09-27 | 記事へ | コメント(0)

2013年09月22日(日)

再稼働と汚染水の勉強会をします

2011年3月11日の福島原発事故から2年半が過ぎました。現在、日本で稼働している原発はゼロです。

「福島第一原発」は壊滅的な危険を孕んだまま、汚染水問題が大きく報道されています。8月8日に汚染水流出政府試算を一日300トンとしたマスコミ報道がありました。東電と政府は汚染水の処理の手立てがなく、海に放出せざるを得ないことは前からわかっていたはず。オリンピックのプレゼンで安部総理は「汚染水による影響は、福島第一原発の構内の0.3平方キロメートルの範囲内で完全にブロックされています」「状況はコントロールされている」と世界に向けて真っ赤なウソを宣言しました。

私たちは本当の事を知ることが大切です。国や関電に対する裁判や政府交渉等を精力的にされている小山英之氏に来て頂いて話をお聞きます。どなたでも参加できます。ぜひお集まり下さい。

### 再稼働と汚染水問題

講師 小山英之氏  
(美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会 代表)

日時 10月19日(土) 13:30~

会場 和歌山市あいあいセンター5階 研修室  
(和歌山市小人町29番地 電話073-432-4704)

主催 原発がこわい女たちの会

参加費 200円

連絡先⇒ 松浦(073-451-5960)

#### ■講師プロフィール



1967年大阪大学大学院理学研究科博士課程(素粒子論専攻)終了。大阪府立大学工学部数理工学で脳神経システムの数理科学的研究などを行い、講師として定年退職。スリーマイル島原発事故を契機に、原発新規立地に反対する運動に参加。91年の美浜2号機事故を契機に「美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会」を結成。同年、高浜2号機の蒸気発生器問題で大阪地裁に提訴。99年、MOXデータ不正事件で大阪地裁に提訴。全国のプルスーマル問題や六ヶ所再処理問題に関与。2000年12月福島第一原発3号機用MOX燃料の使用差止め仮処分申請(福島地裁)で証人として法廷に立つ。

チラシは [こちら](#)

- 2012年09月(2)
- 2012年08月(2)
- 2012年07月(4)
- 2012年06月(4)
- 2012年05月(3)
- 2012年04月(1)
- 2012年03月(1)

#### 最新コメント

- [日韓の原発事情、国 by 民 守 正義(08/21)  
そもそも、我が和歌 by 清水俊幸(07/25)
- コメントありがとう by sora (12/05)
- 突然すみません。東京 by 里美(11/22)
- 10/26と11/29のチケット by 角谷(10/23)
- starさんコメントあり by sora (09/14)
- このブログを読むまで by star(09/13)
- こんにちは。メッセ by わんこ(04/15)
- 現在稼働している大飯 by star(04/09)
- 廃炉産業を起こしてほ by kaziharayosiyuki(03/14)

#### カレンダー

2013年09月											
日	月	火	水	木	金	土					
1	2	3	4	5	6	7					
8	9	10	11	12	13	14					
15	16	17	18	19	20	21					
22	23	24	25	26	27	28					
29	30										

#### 最新記事

- 琵琶湖が危ない 老朽原発美浜3号も廃炉に！ 11・13 琵琶湖集会(11/15)
- 汐見文隆先生、ありがとうございます(11/08)
- 原発がこわい女たちの会 ニュース99号発行(10/12)
- 高速増殖炉もんじゅ廃炉へ(09/27)
- 老朽原発・美浜3号機は廃炉に！パブコメを出そう(08/28)
- ピースボートで韓国古里(コリ)原発を見学してきました(08/21)
- 熊本地震の経験から原発の耐震性見直しを要求し、25団体で共同声明を出しました(07/22)
- 老朽原発・関西広域連合へ要望書と和歌山県との話し合い(07/17)
- 原発のない社会を投票で示そう！(07/05)

2013-09-22 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#)

2013年09月20日(金)

## 福島からの便り—2013年初秋

5月に続いて、橘柳子さんから便りをいただきました。橘さんは、原発事故前は浪江町在住でしたが、ここは放射線量が高い避難指示区域であり、今も福島県本宮市で避難生活を余儀なくされておられます。そして、似た境遇の方がまだ15万人も全国にいらっしゃるのです。

状況はコントロールされている、さあ東京オリンピックだ、と調子のよい掛け声をながしている人たちの耳には伝わっているのでしょうか？ そういえば、JOC 日本オリンピック委員会のトップは、招致活動で「東京は福島と遠く離れているから安全です」とのたまいましたね。福島の人たちの悔しさ憤りは、いかばかりかと察します。

私たちは、避難せざるを得なかった方々の心情と、その後の生活のありようをもっと知りたい、分かちたい、共に繋がっていききたい、と考えます。そのためにも、「福島からの便り」をこれからもブログに載せていくつもりです。

原発がこわい女たちの会  
ニュース98号発行(07/04)

SCHEDULER

ナビゲーション

トップ  
RSS

ID:

PASS:

サイト管理者

SSLモードでログイン

BLOGariは2017年1月末  
サービス終了します

避難指示区域の概念図

平成25年8月8日時点



経済産業省 <http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/kinkyu.html#shiji>

避難指示区域における空間線量から推計した年間積算線量の分布の推移については  
[http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/20130530\\_01.html](http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/20130530_01.html)

風化の中で思う

橋 柳子

大邸宅(仮設の嘲笑的表現)のトタンばりの屋根が抜けるかとおもうほどの大雨をしのいだと思ったら、次は灼熱の暑さ。部屋に居る限り、クーラーを入れずにはいられない。救いは、4.5帖の広さはすぐに涼しくなることだ。8月末になるとようやくすずやかな風と共に、さわやかさを運んでくれる。豪雨と太陽のいかりの熱がすぎ周りの自然も秋へと移っている。ナナカマドが色づき稲穂も日1日と実りの重さを体現しはじめている。2年半の歳月はあらゆるものに、くまなく影響を与えていると思うのだが、今年は多くの小鳥たちの姿にもさえずりにも出あう。セミも秋の虫の声も聞かれる。たくましい生命力を感じると共に驚きでもある。個々の影響は解らないが学者さんが調べると変化が見られるようだ。

人々の心にも変化があらわれている。福島を少し離れただけでも、まして遠くにいけばいくほど、さらに都会では「福島はすでにない」はなやかさと表面的な豊かさがもどっているように思う。そして悲しい事に、福島自体も、さらに避難の者たちにさえもである。

でも、でもしょうがないことなのかもしれない。苦しみからのがれたいのである。すっかり忘れたわけではない。多くの悲しみと諸々の思いを心の奥深くたたみこんだだけなのだ。そうしなければ、日々生きていけない心情をかかえている。一日一日を生きなければならぬのである。一方で放射能のことばかり考えていると「ストレス」になるから「忘れる」と言うが、そのこととはちがうと思う。忘れてもらって喜ぶのは国と東電のみ。生きること命を長らえることは「原発事故と放射能」に対する怒りと共になのである。

国をあずかる者たち、これだけ多くの人々を苦しめ、自然界を破壊し、国土を汚染しつくし、輪廻をもくろむわしたことを決して忘れてはいけないことなのだ。福島原発事故で、すぐ脱原発を掲げたのは、日本ではなくドイツのメルケル首相。そしてそれを支持する国民のすばらしさを思い考えさせられている。そこには核の恐怖のない未来を引継ぐことの大事さがみえる。「ああ国よ東電よ、民の真の願いと希望を風化に依拠する卑怯なことばしないで」と日々心の中でさげんでいる。人々の風化とは意味がちがうのだ。国民に対する責任というものがある。国土を汚染した責任というものがある。

責任の意味を問い続けるべきだと考えている。 2013.8.26

2013-09-20 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#)

2013年09月13日(金)

福島原発不起訴処分の怪

福島原発告訴についてはこれまでも触れてきましたが、不起訴処分が出されました。オリンピック東京招致で沸きあがっていた9日のことです。  
※2012・9・5、2013・1・10ブログなど

まずは、福島原発告訴団のHPをご覧ください。  
<http://kokuso-fukusimagenpatu.blogspot.jp/>

(2013年9月9日)

**被害者を愚弄する不起訴に抗議**

■経過報告■

- ・12時過ぎ、福島地検が事件を東京地検に移送。
- ・13時過ぎ、東京地検が「不起訴処分」決定。
- ・17時、福島県庁にて記者会見。

本日、驚くべきことが起きました。「福島で起きた原発事故に対する責任を明らかにせよ」と福島地検に告訴したにも関わらず、福島地検は責任を回避し、東京地検に移送いたしました。しかも、東京地検は移送を受けて、間髪をいれずに全員の不起訴を決定。

このことは、事故で被害を受けた福島県民としては、到底、受け入れられることではありません。

私たちは、不起訴処分の判断が下された場合、即刻、検察審査会に申し立てを行う予定でございましたが、事件が突如として東京に移送されたため、福島県の検察審査会で審査されなくなってしまいました。その結果、被害当事者が住んでいる福島県ではなく、東京都で都民が審査するというのです。この出し抜きの行動は、事故被害者を愚弄する仕打ち、そのものであると思います。今後、抗議と対策を検討し、申し立てを行います。

また、この不起訴に関する報道ですが、「東電旧経営陣・菅元首相ら、全員不起訴」といったように必ずといっていいほど「東電と菅元首相」がセットで伝えられています。しかし、福島原発告訴団が告訴したのは、東電経営陣と御用学者らであって菅元首相ら政治家ではありません。誤解のなきよう、名簿でご確認ください。

被告訴人名簿(33名+1法人)  
(引用以上)

ここにもあるように、被告訴人に元閣僚(菅直人、枝野幸男、海江田万里)の名があって、菅元首相の談話までまことしやかに報道されています。そして福島地検に告訴したのに東京地検からとなっています。これでは、福島原発告訴団とは「別もの」かと誤解されるのもムリからぬこと。ほんとうに、去年6～11月に福島県及び全国から1万5000人近い住民が参加した大告訴団、武藤類子さん団長、河合弘之弁護士らを代理人とする、被告訴人33名の告訴のことですよね？！

**報道各社も、いったい何をみているのだろうか？  
菅元首相らをセットにするのは何のためなんだろうか？  
福島から東京に移送したのはどういう根拠？  
突如この日に急いで不起訴処分を公表したのは何のため？**

まったく奇奇怪怪。

そして何よりも、事故発生後2年半が経過しても、誰一人として刑事責任が問われていないのは何故？  
検察当局が、原発事故を起こした東京電力に対し家宅捜索すらせずに、不起訴処分に、つまり門前払いにしたのは、国民感情から考えてもまったく納得がいかないことです。(現場検証は高い放射線量に阻まれてできなかったなんて、なんだか笑えてきます)

国会事故調は「事故は人災」と指摘しました。東京電力、安全委員会等、原子力ムラ全体がとり続けてきた政策の結果だと思えます。

たしかに組織処罰の難しさはあるかもしれませんが。例えば、2005年に大惨事を起こしたJR福知山線脱線事故では、JR西日本社長が起訴され地裁で無罪判決が下りました。それでも、司法のマナイタには乗せられているのです！

これだけのわかり知れない被害をもたらした(続けている)福島原発事故は、司法の場でも真相を明らかにされなければならないと思います。

最後に福島原発告訴団の開催告知を2つ転載しておきます。

(sora)

**(1) 「不起訴」処分に対する緊急集会**

- ・9月13日(金) 17:00～18:40
- ・東京弁護士会館 10階 1006 東京都千代田区霞が関1-1-3
- \* 会場が狭いため、入場いただけない場合があります。
- \* 福島県内において、東京地検検事からの「理由」説明を聞く場は、別途開催する予定です。
- \* 連絡先 福島原発訴訟団 Tel:080-5739-7279 Mail:info@1fkokuso.org (※を@に替えてください)

**(2) これでも罪を問えないのですか？ 不起訴処分に抗議する集会 を開催します。**

- ・日時 9月29日(日) 12:00～14:00
- ・場所 郡山ユラックス熱海 大会議室 郡山市熱海町熱海2丁目148-2

2013-09-13 | [記事へ](#) | [コメント\(2\)](#)

2013年09月04日(水)

**浦磯合宿・今年も開催**

猛暑の続いた8月末、日高町方杭にて、脱原発わかやま主催による浦磯合宿に行ってきた。

今年のテーマは「子どもたちに何を残せるのか」

参加者は、県下、関西、関東から二十数名。

外に、ドキュメント映画撮影隊が取材のため同行されていたが、この件については別途。

(※昨年の合宿の様子は、2012・8・27のブログで)



かつて原発誘致で揺れた日高町。左が合宿会場の民宿・波満の家さん

まず、今中哲二さんからの話題提供。

「チェルノブイリ・福島～最新情報―被曝について分かっていること、よく分からないこと」と題して、福島の人々の放射線被曝の実態について詳しく話していただいた。

現在、福島の子どもたちに甲状腺ガンが増えているが行政は認めたがらない。いわく「チェルノブイリのデータと比較して早すぎる。検査の精度が高いから」。でもチェルノブイリでも当初全く同じで「広島・長崎と比較して…」だったとのこと。

放射線被曝がもたらすのは、ガン・白血病だけではない。よく分からない影響がさまざまにあげられ、例えば食品を通じた内部被曝、染色体異常児や心臓疾患の増加…。そして見通しのない避難生活。原発で大きな事故が起されれば住民の健康が損なわれるばかりか「地域社会が丸ごと消滅する」事態は避けられないように思える。

今中さんは、飯館村民の初期被曝線量を推計するため、一人ひとりが「被災当時どこで何をしていたか、いつ避難したか」聞き取り調査を開始している。行政のバックアップもなく難航するところもあるようだが、調査結果は、住民にとって貴重なデータとなるはずだ。期待したい。  
なお、今中さんたちの活動は、飯館村放射能エコロジー研究会<http://iitate-sora.net/>で情報発信されており、参考になる。

川野真治さんからは、「深層防護の現実」のテーマで、原子炉の深層(多重)防護の現状と背景について話していただいた。

原子力施設は、多段的な安全対策を講ずることで不測の事態が発生しても大事に至らないように設計されているようだ。しかし、INES(国際原子力事象評価尺度)の事例をふりかえるとレベル5以上の重大事故がおよそ10年おきに起こっていること、地震大国日本で原発を持つこと自体が誤りであることを、伊方裁判での原告側主張—ことごとく退けられた—を交えながら述べられた。

これまで原子カムラでは、コストの節減、前例に従う、内向きで排他的、などの傾向が顕著で、結局多重防護が現実には機能しなかったこと、せいぜいINESレベル3までに限定していたためにかくのごときお手上げ状態の大混乱をもたらしたこと。関連学会も原子カムラと同じで、事故前と何も変わっていないと指摘され、科学者・研究者のあり方も議論を呼んだ。

思うに、科学者は専門家かもしれないがその言動がすべて正しいわけではない。素人は専門家の言うことをそのまま信じてしまいがちだけれど。これは対マスコミについても同様だ。このような専門家神話、マスコミ神話は、福島原発事故で随分と薄らいだ(地に落ちた?)が、私たちはこれからも、「それってホンマかいな?」という素人なりのしたたかさを身につけないとね。…熊取の先生方には失礼、かな。

7月22日放射能汚染水を含んだ地下水が海に漏洩を公表。  
8月19日に東電から報告された120%の汚染水タンクの漏れ。翌日には桁違いの300%に修正。  
8月30日には、水漏れタンク底部付近で毎時1800リットル。一般人の基準値を年間1リットルとすると…1600万倍!

参加者の関心は自ずと、現下の汚染水問題に集まる。この問題については小出裕章さんにお聞きした。小出さんは、事故直後から汚染水をタンカーで移送して処理する提案をされ、発刊予定の『世界』10月号などにも、汚染水について(に限らないが)発信し続けられている。「汚染水問題は、皆さんが考えているより酷い」が第一声。とんでもない事態が進行中と承知していたけど、そのとんでもない事がどれくらい絶望的な状態か、震撼する内容だった。汚染水の質と量、格納容器からの漏水、計画中の凍土壁の限界、作業現場の高線量、下請け作業員の被曝、福島原発行動隊…。小出さんによると、冷却水注入は再検討すべき時期にきており、注水を止めて金属(鉛など)を投入して、空冷式に転換できないかと考えている。しかし首尾よくいけるかは、人類未経験のことで分からない。汚染が激しく、メルトダウンした燃料棒がどこにどのような状態で存在するか、チェルノブイリのように饅頭型になっているのか飛散しているのかも(小出さんは後者ではないかと推測)。

2つ目の強調点は、東電はなんとしても倒産をさせること。これだけの厄災を起こした責任をとらせることが先決。その上で国が収束作業に関与を深め必要な支援、国費を出すべき。現状では何をしても電力会社は倒産しないで済むという誤ったメッセージになっているという。



「子どもたちに何を残せるのか」—思い浮かぶのは、収束しないままの福島原発の残骸、全国で発生する行き場の無い使用済み核燃料、放射能に汚染された海、山、町…どれも悲観的な材料ばかり。でもそのところを、覚悟して目をそらさないこと。知らないふり、忘れたふりをするわけにはいかない。私たち大人が、この現実を受けとめて決して原発を許さないという姿勢で生きる。そのことが子どもたちに残せることなのかも、とおもう。

合宿を終えて、30日、汚染水漏れの事故対策を審議すべき国会が、東京五輪招致への影響を懸念して委員会開催を先送り、との報道。安倍総理は、IOC総

会が開催されるブエノスアイレスまで東京招致のプッシュに出かけるそうだ。  
ったく！ 日本って国は！  
放射能汚染水漏れは、海外メディアが連日トップニュース扱い、国際的な信用  
問題となっているというのにー。

(sora)

---

2013-09-04 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#)

